

道璿撰『註菩薩戒經』佚文集成

伊 吹 敦

はじめに

鑑眞に先立って授戒師として日本に招かれた道璿(688-763)は、晩年、「律師」の職を辞すと、吉野の比蘇寺に入り、『梵網經』の注釋書の著述に専念した。こうして世に出たのが『註菩薩戒經』三卷である⁽¹⁾。既に論じたように、本書は、道璿の禪思想や戒律觀、最澄の大乗戒思想との關聯等を知るうえで不可欠の資料であるだけでなく、道璿が普寂(651-739)のもとで學んだ北宗禪の戒律思想を窺いうる數少ない貴重な資料とすることができる⁽²⁾。

しかし、残念なことに中世以降に失われ、今日では諸書に引用された斷片的な佚文が知られるのみとなっている。本拙稿の目的は、今後の研究に資するため、それら諸書に見られる佚文を集成し、その原型を彷彿させることにある。

もっとも、道璿の『註菩薩戒經』の佚文を集成しようとする試みは、既に百年近くも前に俗慈弘氏によって一度行われている。1925年から1926年にかけて雑誌『寧樂』の第4號と第5號に載った「大安寺道璿の

- (1)この道璿の著作については、以下の「『註菩薩戒經』復元本文」の佚文(1)に示すように、文献によって様々な名稱で呼ばれており、一定しない。従来、筆者は、凝然や照遠が「集註」、あるいは「集注」と呼んだのに基づいて、「集註梵網經」と呼稱してきたが、最も古く本書を引用する最澄が「註菩薩戒經」と呼んでいるのを尊重すべきであるとの考えから、本拙稿では「註菩薩戒經」を採用することとする。
- (2)これについては、拙稿「日本の古文獻から見た中國初期禪宗—大安寺道璿の『集註梵網經』を中心に」(『東洋思想文化』2、2015年)を参照されたい。
- (3)この俗氏の論文は非常に著名なもので、その後、根岸誠二編『奈良時代の僧侶と社會』(論集奈良佛教3、雄山閣、1994年)に再録されている。

(2)

註梵網經について」がそれである⁽³⁾。ただし、氏の論文は基本的には凝然(1240-1321)の『梵網經本疏日珠鈔』のみに基づいたものであり、外の典籍からの佚文は極めて少ない。しかし、実際には、この論文の末尾近くで俗氏自身が言及しているように、定泉(1273-?)撰『梵網經古述記補忘抄』や照遠(1302-?)撰『梵網經下卷古述記述鈔』等にも多くの佚文が見られるのであり、それらも含めたより完全な集成が求められていた。また、俗氏は佚文を列挙するのみで、それが注釋の対象とした『梵網經』の經文を示していないため、その注釋の意味が容易には理解しがたいという憾みもあった。本拙稿は、こうした俗氏の論文の問題点を克服せんことを目指したのものである。

結果として八十條に近い佚文を集めることができたが、それでも『註菩薩戒經』の全體からすればほんのわずかなものに過ぎない。この點は、はなはだ遺憾ではあるが、ただ、諸家がその部分を引用したのは、そこに道璿注の特徴を認めたことによる場合が多いと考えられるから、その分量の少なさにも拘わらず、かなりの程度まで、『註菩薩戒經』の特色を反映しているのではないかと考えられる。従って、道璿、あるいは北宗禪の戒律思想をそこから窺うことも無理ではないはずである。

しかし、『註菩薩戒經』の内容や特色を正確に理解するためには、更なる佚文の蒐集が缺かせない。未見の多くの文獻の中にまだまだ多くの佚文が残されているはずであるから、諸賢のご教示を仰ぎ、今後も増補に努めて行く所存である。

『註菩薩戒經』復元本文

引用文獻・略稱一覽

- 『梵網經盧舍那佛說菩薩心地戒品第十卷下』：大正藏24所收本
法藏撰『梵網經菩薩戒本疏』（『法藏疏』）：大正藏40所收本
智周撰『梵網經菩薩戒本疏』（『智周疏』）：續藏1-60-3所收本
法銑撰『梵網經菩薩戒疏』（『法銑疏』）：惠谷隆戒「新出の唐法銑撰梵網經疏卷上之上に就いて」（『日華佛教研究會年報』2、1937年）所載本

- (『法銚疏1』)、並びに續藏1-60-3所收本(『法銚疏2』)
- 明曠撰『天台菩薩戒疏』(『明曠疏』) : 大正藏40所收本
- 元曉撰『梵網經菩薩戒本私記』(『元曉疏』) : 續藏1-95-2所收本
- 義寂撰『菩薩戒本疏』(『義寂疏』) : 大正藏40所收本
- 太賢撰『梵網經古迹記』(『太賢疏』) : 大正藏40所收本
- 法進撰『註梵網經』(『法進疏』) : 『日珠鈔』等所引佚文
- 最澄撰『内證佛法相承血脈譜』(『血脈譜』) : 『傳教大師全集』1所收本
- 最澄撰『顯戒論』 : 『傳教大師全集』1所收本
- 光定撰『傳述一心戒文』(『一心戒文』) : 『傳教大師全集』1所收本
- 圓珍撰『授菩薩戒儀裏書』(『裏書』) : 『傳教大師全集』1所收本
- 永超撰『東域傳燈日録』(『永超録』) : 大正藏55所收本
- 實範撰『東大寺戒壇院受戒式』(『受戒式』) : 大正藏74所收本
- 凝然撰『梵網經本疏日珠鈔』(『日珠鈔』) : 大正藏62所收本
- 凝然撰『三國佛法傳通緣起』(『傳通緣起』) : 『大日本佛教全書』101所收本
- 湛睿撰『華嚴演義鈔纂釋』(『華嚴纂釋』) : 大正藏57所收本
- 定泉撰『梵網經古迹記補忘抄』(『補忘抄』) : 『日本大藏經』19所收本
- 照遠撰『梵網經下卷古迹記述迹鈔』(『述迹鈔』) : 『日本大藏經』20所收本

凡 例

1. 道璿による『梵網經』の注釋書は、元來、「註菩薩戒經」と名づけられ、「標題・撰號」「序文」「總論」「隨文釋」「尾題」「奧書」の各部分から成っていたと考えることができる。
2. このうち、「標題・撰號」「序文」「總論」「尾題」「奧書」の部分については、その佚文の引用を通し番號を附して列擧し、該當箇所を下線を附した。
3. 一方、「隨文釋」の部分については、『梵網經』の經文を大正藏本に基づいて大字で掲げ(注釋が全く殘されていない戒の條文などは、省略した場合がある)、道璿注の佚文が對象としたと考えられる經

(4)

文に註番號と下線を附し、註記の形で佚文を掲げた。その場合、註番號は他の部分と通しで附した。なお、十重戒や四十八輕戒への注釋などで、その條文、あるいはその部分全體を對象とすると考えられるものについては、下線を引くことなく、末尾に註番號を附した。

4. 「隨文釋」の場合、異なる注釋内容の佚文であっても同一の經文に對するものであれば、同一の註番號のもとに列擧した。また、同じ内容の佚文が異なる文獻に見られる場合も、參考の便に供するために、省くことなく同じ註番號のもとに列擧した。
5. 佚文の中には、他の人の『梵網經』の注釋を引用したうえで、道璿の注釋がそれと同じであることを明示する例がしばしば見られる。また、佚文の前後の文章がないと、その佚文の意味が明確にならない場合もある。そうした場合、道璿の注釋、あるいはそれに相當する文章だけでなく、前後の文章も提示した。また、そうした場合に限らず、道璿の注釋、あるいはそれに相當する文章については、その全てについて下線を附した。
6. 『註菩薩戒經』に言及する文獻の中には、道璿が用いた『梵網經』のテキストと他のテキストとの本文の異同について言及する場合がしばしば見られるが、これらは佚文とは言えないものの、重要な情報と認められるから、經文の後に、道璿の注釋よりも小字で註記した。
7. 『註菩薩戒經』が依據した注釋が特定できる場合は、それを註記した。また、他の注釋書に關聯する記述や參考にすべき記述等が認められる場合も、それを註記した。更に、『智周疏』『法銑疏』『元曉疏』については、道璿が直接依用していることが明らかであるものの、その完本が傳わらないが、これらとの對應關係は極めて重要であるから、散佚のために當該部分が參照できない場合は、そのことを明記した。
8. 末尾に「附録」として道璿撰の『菩薩戒本』の佚文を附した。この『戒本』そのものが『註菩薩戒經』の一部として傳承された可能性もあると思われるからである。
9. 以下の「復元本文」において使用した符號は以下の通りである。
〔 〕：必要に應じて筆者が本文として補ったものであることを示

す。

【 】：本書を理解する便宜のために筆者が補った註記であることを示す。

*、**：道璿が注釋の対象とした『梵網經』のテキストについての諸文献の記載であることを示す。

○：『智周疏』『法銑疏』『法進疏』等の注釋との文章上の對應關係についての筆者の註記であることを示す。

*：既に俗慈弘氏の前掲論文「大安寺道璿の註梵網經について」に佚文として掲げられている、あるいは、それと指摘されているものであることを示す。

10. 利用したテキストには、寫誤と見られる箇所が散見されるが、敢えて本文の修正は行わず、そのまま提示した。

本文

【標題・撰號】

〔註菩薩戒經三卷 道璿集〕⁽¹⁾

(1) 「遂集註菩薩戒經三卷。」(『血脈譜』所引の吉備眞備撰『道璿和上傳贊』212)

「謹案註菩薩戒經序云。」(『血脈譜』211)

「南唐註經云。」(『顯戒論』134)

「今案道璿和上註梵網文。」(『一心戒文』618)

「梵網經註三卷道璿律師於日本撰述」(『永超錄』1155上)

「日本大安寺道璿律師集註三卷」(『日珠鈔』4上)^{*}

「道璿注三卷弘禪宗。多依天台注之。元唐僧。後來日本。住大安寺西塔院。製作今疏。於現光寺撰之。」(『補忘抄』543下)

「道瓊注三卷禪宗歟。後來日本。住大安寺西塔院」(『述迹鈔』221上)

「大安寺唐僧道璿律師集注三卷」(『述迹鈔』232上)

「道璿注梵網唐僧。來住大安寺。彼疏與昔云。於現光寺撰之云云」(『述迹鈔』245上)

「集注菩薩戒云」(『述迹鈔』464下)

(6)

【序文】

(2) 「謹案註菩薩戒經序云。普寂禪師爲人所尊。一如大通。和上即入室弟子。骨氣倜儻。儒典盡包。雅志淵汰。圓章窮底。終年竟歲。道俗滿寺。理戒嚴合。受法雲奔。日夜無間。誨誘忘疲。法化之盛。豈以言筆而能歎述之哉。」(『血脈譜』211)

【總論】

(3) 「一今疏・法銑・道璿・法進。並以三聚淨戒爲宗。」(『日珠鈔』15中)^{*}

○『智周疏』の相當部分は散佚。『法銑疏1』に「初辨宗者。即以三聚淨戒爲宗」(191)、『法藏疏』に「宗中亦二。先總後別。總者。以菩薩三聚淨戒爲宗」(604上)等とある。あるいは『法銑疏』に基づくものか。

(4) 「璿注云。報障者。唯地獄餓鬼爲障。是二道苦極。不得受戒」(『述迹鈔』238上)

○『智周疏』の相當部分は散佚。依據した注釋は未詳。

(5) 「道璿注。機教相對作二門。一圓機門即全受者。道俗俱全受者。此門攝也。二布行機門即分受也。但局在家。隨引散先固一漸具餘行文證之矣。是則出家必可全受見是一。上取意略引之乎。」(『補忘抄』552上-下)

「在家菩薩不堪具受。故許分受。是以道璿注梵網唐僧。來住大安寺。彼疏與書云。於現光寺撰之云云。立二種門。一圓軌門出家護全受者也。二布行門在家隨文受一二戒者。是則出家必可全受見。」(『述迹鈔』245上)

○『智周疏』の相當部分は散佚。依據した注釋は未詳。

(6) 「南唐註經云。問。大乘戒菩薩所學。聲聞戒律儀亦得是菩薩所學不。答。今以四義料簡。初大小相隔者。如此經。起一念二乘心。學二乘經律。即犯輕垢罪。法華。貪著小乘。三藏學者。不與共住。二以大斥小者。維摩經云。心淨故衆生淨。心垢故衆生垢。不出於如。又迦葉被呵云。我從是來。不復勸人以聲聞辟支佛行。三調伏攝受小乘者。一切登地以上菩薩。現作二乘。同二乘法。而調伏之。縱是三十賢菩薩。若出家者。一一皆受行二乘戒法。及欲攝受。不與二乘而相違背。四開小入大者。如法華云。汝等所行。是菩薩道。漸漸修學。悉當成佛。又大經云。菩薩摩訶薩。持四重禁。及突吉

羅。敬重堅固。等無差別^{已上註文。}」(『顯戒論』134)^{*}

○『智周疏』の相當部分は散佚。依據した注釋は未詳。

- (7) 「有云。若總受三聚淨戒者。雖不別受比丘別解脫戒。而成菩薩比丘性。地持等說。攝律儀戒中。有七衆別解脫戒。故淨影破云。此義不然。菩薩戒中。雖復通攝七衆之法。一形之中。不可竝持七衆之戒。隨形所在。要須別受。如人雖復總求出道隨人何地別。須起心方便趣求。此亦如是^{云云}。道璿和上同淨影意也。」(『受戒式』32上)

○『智周疏』の相當部分は散佚。慧遠の『大乘義章』に「有人釋言。不須更受。菩薩戒中。已通得故。此義不然。菩薩戒中。雖復通攝七衆之法。一形之中。不可並持七衆之戒。隨形所在。要須別受。如人雖復總求出道隨入何地別。須起心方便趣求。此亦如是」(大正藏44、663上)とある。依據した注釋は未詳。

【隨文釋】

【經題・譯者】

梵網經盧舍那佛說菩薩⁽⁸⁾心地戒品*第十卷下** 後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯 (1003中7-8)

「樸楊上八字同。菩薩心地戒品。道璿亦同。法進亦爾。但加第十之言。」(『日珠鈔』17中)^{}

「樸揚上八字同。菩薩心地戒品文。道璿亦同前。」(『述述鈔』227下)

**「勝莊・法銓・道璿・傳奧・利涉・樸楊自下卷始而解釋之。」(『日珠鈔』4中)^{*}
「勝莊・法銓・道璿・傳奧・利涉・樸揚自下卷初而解。」(『述述鈔』234上)

- (8) 「樸楊師云。心者分二。一自性清淨心。亦名真如心。二離染心。亦名生滅心。以其微塵雜染。則制之以罪名。毫末乖眞。則防之以分齊。故名心也。地者從喻得名。若一切受持戒者。皆能自利利他。讚嘆隨喜。亦如大地荷負一切地名地也^{已上}。道璿釋廣。恐繁不引。」(『日珠鈔』17上)

○『智周疏』の相當部分は散佚。『日珠鈔』によって、『智周疏』に基づきつつ、それよりもかなり詳しく「心地」について

(8)

論じていたことが知られる。

【總序】

爾時盧舍那佛。爲此大衆。略開百千恒河沙不可說法門中心地。如毛頭許。是過去一切佛已說。未來佛當說。現在佛今說。三世菩薩已學當學今學。我已百劫⁽⁹⁾修行是心地。號吾爲盧舍那。汝諸佛轉我所說。與一切衆生開心地道。時蓮花臺藏世界赫赫天光師子座上盧舍那佛放光光。告千花上佛。持我心地法門品。而去復轉爲千百億釋迦及一切衆生。次第說我上心地法門品。汝等受持讀誦一心而行。(1003中10-19)

- (9)「今案道璿和上註梵網文。彼梵網經說。我已百劫修行是心地。號吾爲盧遮那。彼注文云。修行者。天台師說。修行一切之法。不生不滅。不常不斷。不一不異。不來不去。常住一相。猶如虛空。言語道斷。自性清淨。是名修行。如是行人。於自性清淨心中。不犯一切戒。是即虛空不動戒。又於自性清淨心中。安住不動。如須彌山。是則虛空不動定。又於自性清淨心中通達一切法。無癡自在。即是虛空不動慧。如是等戒定慧。名盧遮那佛。亦知。如天平勝寶年中。共鑑眞和上來。法進僧都註梵網經文。亦同璿和上戒文。亦同國清百録文。智者普禮自性三學。」(『一心戒文』618。また、同633も略ぼ同文)*

○『智周疏』の相當部分は散佚。法進の『註梵網經』も同文であったとされるから、何か共通に基づくものがあつたはずであるが、『智周疏』にこれとは別の「天台師」の説が引かれている例が二例見られる(153表上、159表下)ことから判断すれば、恐らくは『智周疏』に基づくものであろう。

爾時千花上佛千百億釋迦。從蓮花藏世界赫赫師子座起。各各辭退舉身放不可思議光。光皆化無量佛。一時以無量青黃赤白花供養盧舍那佛。受持上說心地法門品竟。各各從此蓮花藏世界而沒。沒已入體性虛空花光三昧。還本源世界閻浮提菩提樹下。從體性虛空華光三昧出。出已方坐金剛千光王座。及妙

光堂說十世界海。復從座起至帝釋宮說十住。復從座起至炎天中說十行。復從座起至第四天中說十迴向。復從座起至化樂天說十禪定。復從座起至他化天說十地。復至一禪中說十金剛。復至二禪中說十忍。復至三禪中說十願。復至四禪中摩醯首羅天王宮。說我本源蓮花藏世界盧舍那佛所說心地法門品。其餘千百億釋迦亦復如是無二無別。如賢劫品中說。(1003中20-下7)

爾時釋迦牟尼佛。從初現蓮花藏世界。東方來入天王宮中說魔受化經已。下生南閻浮提迦夷羅國。母名摩耶父字白淨吾名悉達。七歲出家三十成道。號吾爲釋迦牟尼佛。於寂滅道場坐金剛花光王座。乃至摩醯首羅天王宮。其中次第十住處所說。時佛觀諸大梵天王網羅幢因爲說。無量世界猶如網孔。一一世界各各不同別異無量。佛教門亦復如是。吾今來此世界八千返。爲此娑婆世界坐金剛花光王座。乃至摩醯首羅天王宮。爲是中一切大衆略開心地法門品竟。復從天王宮下至閻浮提菩提樹下。爲此地上一切衆生凡夫癡闇之人。說我本盧舍那佛心地中初發心中常所誦一戒光明。金剛寶戒是一切佛本源。一切菩薩本源。佛性種子。一切衆生皆有佛性。一切意識色心是情是心皆入佛性戒中。當當常有因故。有當當常住法身。如是十波羅提木叉。出於世界。是法戒是三世一切衆生頂戴受持。吾今當爲此大衆重說⁽¹⁰⁾ 十無盡藏戒品。是一切衆生戒本源自性清淨。(1003下8-28)

- (10) 「道瑿云。十無盡戒品者。兩釋。一如十重戒相。如初不殺生戒相。菩薩發心。盡十方虛空界。心生種類。有形有命。普皆不殺。如是說者。名戒相無盡也。二者。戒體無盡者。如菩薩受不殺生戒時。盡虛空遍法界一切衆生類。一一衆生身上發得不殺清淨戒體。與菩薩一念俱^文。」(『述迹鈔』279上-下)

「道瑿意。以戒相戒體遍十方界義。云無盡戒也^{文如上}。」(『述迹鈔』281上)

○『智周疏』の相當部分は散佚。依據した注釋は未詳。

【別序】

- | | | | | |
|------|--------------|--------------|-------------------|----------------------------|
| (11) | <u>我今盧舍那</u> | <u>方坐蓮花臺</u> | <u>周匝千花上</u> | <u>復現千釋迦</u> |
| (12) | <u>一花百億國</u> | <u>一國一釋迦</u> | <u>各坐菩提樹</u> | <u>一時成佛道</u> |
| (13) | <u>如是千百億</u> | <u>盧舍那本身</u> | <u>千百億釋迦</u> | (14) <u>各接微塵衆</u> |
| | <u>俱來至我所</u> | <u>聽我誦佛戒</u> | (15) <u>甘露門則</u> | (16) <u>開</u> <u>是時千百億</u> |
| | <u>還至本道場</u> | <u>各坐菩提樹</u> | <u>誦我本師戒</u> | <u>十重四十八</u> |
| (17) | <u>戒如明日月</u> | <u>亦如瓔珞珠</u> | <u>微塵菩薩衆</u> | <u>由是成正覺</u> |
| (18) | <u>是盧舍那誦</u> | <u>我亦如是誦</u> | <u>汝新學菩薩</u> | <u>頂戴</u> (19) <u>受持戒</u> |
| | <u>受持是戒已</u> | <u>轉授諸衆生</u> | <u>諦聽我正誦</u> | <u>佛法中戒藏</u> |
| | <u>波羅提木叉</u> | <u>大衆心諦信</u> | <u>汝是當成佛</u> | <u>我是已成佛</u> |
| | <u>常作如是信</u> | <u>戒品已具足</u> | <u>一切有心者</u> | <u>皆應攝佛戒</u> |
| | <u>衆生受佛戒</u> | <u>即入諸佛位</u> | <u>位同大覺已</u> | <u>真是諸佛子</u> |
| | <u>大衆皆恭敬</u> | <u>至心聽我誦</u> | (1003下29-1004上22) | |

- (11) 「一惠岳師曰。我今盧舍那者。亦名毘盧舍那。反淨滿故。攝論云。一切白法滿故。一切障永滅。唯有如如如如智。合名法身。出纏真如名如如。一切智・種智名如如智。此二合體。不一不異。故名如來。如此如來。即是法身。名為舍那 巳上。又云。今約此文舍那千百億等判三身者。有二義。一相門。舍那本化千釋迦。爲此千爲本化千百億。二約理門。千與千百億。同是舍那所起。俱皆化佛。但以處別故千爲應身。千百億爲化身 巳上。彼師又云。問。我今盧舍那。此言何佛說 答。是法身說。然有三義。一由法身理聖解得生。以生解故。名為說法。二法身理內具恒沙性德故。應化兩身得說戒等法門。故云說法。三法身之外無彼二身。是故二身說法即是法身之說。故得云法身說法也 巳上。又云。舍那掩通在千土上。俱隨別異異見。故有千土。土上各有一釋迦耳。故知千釋迦即是舍那。舍那即是千釋迦 巳上。此師意說。佛果功德。體性法門。皆是法身圓滿相。然隨機根有報化等。由此義故。臺上舍那是他受用。葉中之佛即是化身。其葉上佛是通二身。淨土之身故爲受用。亦名應身。應上機故。臺上所起。故名化身。彼師又云。若以三身法門判舍那。總門三身者三門分別。一就體言。本有真理名為法身。一切悲智名為應身。相好色形者名為化身。二約處解。法身處・德同號法身。

淨土之身名爲應身。亦名受用。彼淨土或有三尺百尺乃至滿虛空身等。亦屬受用身攝。穢土之身名爲化身。所作此身屬化身攝。若猿猴等彼二身所不能攝者。還屬法身攝。三據德言。斷爲法身。智爲應身。恩爲化身^{巳上}。分別三身有此諸門。且約一相。即如上明。然約本言。無非法身。事中明本。葉上葉中即是舍那。歸其源故。道璿律師全同惠岳。故彼註中引惠岳師臺上即法身義已云。雖復隨機異現之義不無。約本而言。故云法身說也。會意之從必莫如言異計。依見起報者大患也^{巳上}。此乃釋成惠岳師義以爲自義。此外有無有別陳自義。】(『日珠鈔』23下-24上)* (ただし、俗氏は「雖復隨機異現之義不無。約本而言。故云法身說也」のみを佚文とする)

「故璿師云。臺周有千葉。花各現一佛。故云千釋迦。即是十方淨土。臺藏內千土。舍那瀧通在千土上^{巳上}。」(『日珠鈔』32中)*

「璿云。即是十方淨土。」(『日珠鈔』33中)

「道璿注引慧岳師義云。是法身說^{云〇}。」(『補遺抄』586下)

◎『智周疏』の相當部分は散佚。『法銚疏1』は「周匝千花上」の句に對する注釋までを存し、その後を缺く。この注釋は『日珠鈔』等によれば、全面的に慧岳の『梵網經私記』(散佚)に基づくものごとくである。

- (12) 「是以道璿云。一華是淨土。百億是穢土。淨穢同處^文。」(『述迹鈔』302上)

◎『智周疏』『法銚疏』の相當部分は散佚。依據した注釋は未詳。

- (13) 「但道璿師似兼二義。故彼注云。上句類結餘花。下句示其本身^{巳上}。釋如是等二句文也。問。此千百億文亦結葉上耶。答。疏意不結。唯結葉中。所以如文。然諸師釋義意不同。法銚二釋如前已引。寂云。如是千百億。故云千百億。非是雙牒千及百億。下千百億皆如是釋^{巳上}。道璿亦爾。」(『日珠鈔』35上)*

◎『智周疏』『法銚疏』の相當部分は散佚。『義寂疏』に「如是千百億盧舍那本身。如是千百億者。謂千箇百億。故云千百億。非是雙牒千及百億。下千百億皆如是釋」(661下)とある。前半は、依據した注釋未詳、後半は『義寂疏』に基づくごとくである。

(12)

(14) 「二賢云。盧舍那身雖非凡境。加力見聞接衆而至^{巳上}。此意唯是地前等機。道璿・善珠全同此釋。」(『日珠鈔』35中)^{*}

○『智周疏』『法鈔疏』の相當部分は散佚。『太賢疏』に「第二説法本末。盧舍那身雖非凡境。加力見聞接衆而至。既貫三際之則。非隨時宜所制。故説我誦。不言説也」(701下)とあり、これに基づくらしい。

(15) 「璿云。甘露名不死藥。天上之食。」(『日珠鈔』36下)^{*}

「道璿云。甘露名不死藥。天上之食^{巳上}。」(『華嚴纂釋』232下)

○『智周疏』『法鈔疏』の相當部分は散佚。『明曠疏』に「甘露是諸天不死藥」(585上)、『元曉疏』に「甘露者。翻名不死藥也」(109裏下)、『法進疏』に「甘露梵音。此翻爲不死藥」(『日珠鈔』36下)とある。

(16) 「璿云。對機而説。」(『日珠鈔』36下)^{*}

○『智周疏』『法鈔疏』の相當部分は散佚。『太賢疏』に「對機而顯。是爲開也」(701下)、『法進疏』に「對機顯揚。故名則開」(『日珠鈔』36下)とある。依據した注釋未詳。

(17) 「問。此中幾喩。答。此有二義。一云三喩。一日喩。二月喩。三瓔珞珠喩。此是疏主天台等義。二云四喩。一日。二月。三瓔珞。四珠^璿。曉師・璿師等即此義也。日月等喩。諸師多釋。恐繁不引經。」(『日珠鈔』37上)^{*}

○『法鈔疏2』は、この「戒如明日月」の句に對する注釋以降を存す。『智周疏』の相當部分は散佚。『元曉疏』では「瓔珞」と「珠」とを別の喩えとして區別しており(110表下-裏上)、「言珠者。論如意珠」という(110表下)。『元曉疏』に基づくか。

(18) 「故璿云。舍那誦者。即指心地戒。是本盧舍那所誦^{巳上}。」(『日珠鈔』37上)^{*}

○『智周疏』の相當部分は散佚。依據した注釋未詳。

(19) 「曉云。受持不同。攝大乘論中有三復次。一者。若從他得戒名爲受。若自心得戒名持。解云。若他者先不受人始受故爲受。若自心得戒。過去中先持戒人方得。以自心得戒。故名持也。二者。先得名爲受。後持名爲持。三者。修持戒行。名之爲受。若憶持文句。名爲持也^{巳上}。

璿注亦爾。」(『日珠鈔』37上-中)*

○『智周疏』の相當部分は散佚。『元曉疏』に、これと一致する文章があり(110裏下)、道璿はこれに基づいたらしい。

(20) 爾時 (21) 釋迦牟尼佛。(22) 初坐菩提樹下成無上覺。 (23) 初結菩薩波羅提木叉。孝順父母師僧三寶。孝順至道之法孝名爲戒亦名制止。佛即口放無量光明。是時百萬億大衆諸菩薩。十八梵天六欲天子十六大國王。合掌至心聽佛誦一切佛大乘戒。(1004上23-28)

(20) 「言爾時者。從天宮等者。問。法藏疏上云。爾時者。是此化身從報佛所。受旨迴還。至此時。故云爾時也法統・摸揚・明曠・傳與・道璿・處行等皆同也。」(『補忘抄』600上)

「疏。是此化身從報佛所等者。成道之後。即往臺上。領受戒法。受已還本道場樹下。正指此時。此則十會說法已前。法統・道璿・法進・明曠皆同此釋。」(『日珠鈔』39上)*

○『智周疏』は、この「爾時」の句に對する注釋以降を存す。『智周疏』に「言爾時者。爲化佛身也。此從佛報身佛所受戒迴時。故云爾時」(152表上-下)、『法銑疏2』に「爾時者。是此化佛從報佛所。領戒却還。至此之時。故云爾時也」(238裏下-239表上)、『法藏疏』に「初中爾時者。是此化身從報佛所。受旨迴還。至此之時。故云爾時也」(607上)とある。恐らく、『智周疏』に基づくものであろう。

(21) 「璿云。釋迦翻能。是姓。牟尼翻仁。翻寂。是名。故稱能仁能寂已上。」(『日珠鈔』39上)

○『智周疏』の「釋迦此翻能。是姓。牟尼此翻仁。翻寂。是名也。故稱能仁能寂」(52表下)に基づく。

(22) 「璿云。言初者。以成佛竟。未往餘處。未說餘經。此經在初。於樹下說。此舉誦戒之時。非是成道之時。准上偈中。成佛已後。方接塵衆。詣報佛所聽戒。後還道場。方誦本戒故。言初坐菩提樹已上。與詮師釋全同。」(『日珠鈔』39下)*

○『法銑疏2』の「今言初者。以成佛竟。未法餘處。未說餘經。

此經在初。於樹下說」(239表上)に基づく。なお、『法進疏』は、「令言初者。約已成佛竟。未往餘處。未說餘經。然此戒經初於此菩提樹下說。第二七日方說花嚴經也」(『日珠鈔』39下)となっている。

- (23) 「璿云。言初結者。正覺道成體絕三世。無初中後。無結無不結。爲應應得受者。於寂滅道場。一時頓結無盡藏戒。不同聲聞隨犯漸制。以初誦名爲初結。非是初制名爲初結也^{已上}。此亦同銑師釋。」(『日珠鈔』41中)* (俗氏は『智周疏』とも一致することを指摘)

◎凝然は『法銑疏』と同じとするが、実際には、『智周疏』の「言初結者。正覺道成體絕三世。無初中後。無結無不結。爲應應得度者。於寂滅道場。一時頓結戒無盡藏。故云。初結菩薩波羅提木叉」(152裏上)に基づく。なお、『法進疏』は「謂。初菩薩根機利故。聞即奉行。不待犯緣。一時頓制。故云初結^{乃至}依十地論。佛成道初七日。自受解脫法樂。思惟因緣。猶未起說。第二七日。方興言說。今初結菩薩波羅提木叉者。應異餘文」(『日珠鈔』41中-下)。

佛告諸菩薩言。我今半月半月。自誦諸佛法戒。汝等。一切發心菩薩亦誦。乃至十發趣十長養十金剛十地諸菩薩亦誦。是故戒光從口出。⁽²⁴⁾有緣非無因故光。光非青黃赤白黑。非色非心。非有非無。非因果法。是諸佛之本源菩薩之根本。是大衆諸佛子之根本。是故大衆諸佛子應受持應讀誦善學。佛子諦聽。若受佛戒者。國王王子百官⁽²⁵⁾宰相。比丘比丘尼。十八梵天六欲天子。庶民黃門姪男姪女奴婢。八部⁽²⁶⁾鬼神金剛神畜生乃至⁽²⁷⁾變化人。但解法師語。盡受得戒。皆名第一清淨者。(1004上28-中10)

- (24) 「曉云。有緣非無因者。有三羯磨及現僧緣等。故言有緣。非無因者。所發三品菩提心因非無。故言非無因^{已上}。此與今疏後釋大同。璿師一釋亦爾。寂云。有緣非無因者。謂。外有時衆感法勝緣。內有如來大悲本因。方得現瑞表所說法^{已上}。唯此師是故戒下科云釋光因緣。周云。佛放光爲百萬億大衆。故曰有緣。是佛從初發心。以常誦此戒故。還從口中放

出戒光。故云非無因故光^{已上}。璿師一釋。進師解釋並同也。賢云。戒能破闇。以光爲瑞。常所誦持。從口而出。故說有緣非無因^{已上}。與疏同異。對校可見。第二戒體甚深。經故光非青黃等者。本賢・善珠並以故字屬於前句。牒云非無因故也。周・璿・進・照亦屬上句。今疏不爾。屬下句。銑師亦爾。元曉・傳奧意亦同疏。又光光言分句・連讀。諸師異端解義亦多。樸楊・道璿・法進・道照・與咸等師。並判上光屬前絕句。則云有緣非無因故光。判下光字屬下句。云光非青黃赤白黑等。」(『日珠鈔』48中-下)^{*}

◎『元曉疏』の「言有緣非無因者。有三羯摩及師僧緣等。故言有緣。非無因者。所發三品菩提心因非無。故言非無因」(112裏上)、ならびに『智周疏』の「佛放光爲百萬億大衆。故曰有緣。是佛從初發心。以常誦此戒故。還從口中故出戒光。故云非無因故光也」(153裏下)に基づく。

- (25) 「宰相者。樸揚疏云。宰相者。宰田割也。相者相國之化。言居此位者。觀國之光。利用賓王。斷割時務。故云宰相^{文道璿注同之}。」(『補忘抄』607上)

「道璿注云。宰相者。宰由割也。相者相國之化。言居此位者。觀國之光。利用賓云。斷割時務。故云宰相^文。」(『述迹鈔』336上)

◎『智周疏』の「宰相者。宰由割也、相者相國之化。言居此位者。觀國之光。利用賓王。斷割時啟。故云宰相」(154表下)に基づく。なお、『法進疏』は「又云宰由割也。相者相國之化。居此位者。日食萬錢飲食。大唐如此。觀國之光。利用賓王。斷割時務。每日判天下千萬條事。亦得名爲宰相」(『日珠鈔』53下)。

- (26) 「藏疏云。始從人天。下至非人。故云。乃至鬼神也^文。道璿・法銑疏大與藏疏同。」(『補忘抄』628下)

◎『法銑疏2』に「文列十八變化人者。即龍鬼等。而能變形。本形惟得。恐變不得故。別舉之」(242裏上)、『法藏疏』に「先約主。謂通五趣。唯除地獄。始從人天。至非人。故云。乃至鬼神也」(620上)、『法進疏』に「鬼心多懷怯怖。故名爲鬼。於中別報土勝。受人祭祀。故名爲神」(『日珠鈔』54中)とある。道璿は『法藏疏』に依據したか。

- (27) 「故璿云。變化者。天龍等變身未受戒也^{巴上}。銑云。變化人者。即龍鬼等而能變身。未受戒也^{巴上}。銑云。變化人者。即龍鬼等而能變形。本形惟得。恐變不得故。別舉之^{巴上}。」(『日珠鈔』54下)*

○『法銑疏2』は「變化人者。即龍鬼等而能變形。本形惟得。恐變不得。故別舉之」(242裏上)、『元曉疏』は「及化人者。天龍神等及化來受菩薩戒人等」(113裏上)。『日珠鈔』によると『法銑疏』に基づくごとくであるが、「銑云」として引かれる二つの文章のうち、後者が『法銑疏』と一致し、前者に對應する文章は『法銑疏』の現存部分には見られない。恐らく、前者は他の注釋の取り違えであろうから道璿が基づいた注釋は未詳である。

【十重戒】

【序】

佛告諸佛子言。有十重波羅提木叉。若受菩薩戒不誦此戒者。非菩薩非佛種子。我亦如是誦。一切菩薩已學。一切菩薩當學一切菩薩今學。已略說菩薩波羅提木叉⁽²⁸⁾相貌。是事應當學敬心奉持。(1004中11-15)

- (28) 「璿云。相貌者。即是上文說戒德戒體。是名相貌^{巴上}。」(『日珠鈔』60中)*

○『智周疏』の「相貌者。即是上文說戒德戒體。是名相貌也」(154裏下)に基づく。なお、『法進疏』は「木叉相貌者。能持十重四十八輕即戒之相。三世菩薩皆令受學即戒之貌」(『日珠鈔』60下)。

【第一重戒は省略】

【第二重戒】

若佛子。自盜教人盜⁽²⁹⁾方便盜盜因盜緣盜法盜業呪盜乃至⁽³⁰⁾鬼神有主。劫賊物。一切財物⁽³¹⁾一針一草不得故盜。而菩薩應生佛性孝順慈悲心。常助一切⁽³²⁾人生福生樂。而反更盜人財物

者。是菩薩波羅夷罪。(1004中21-25)

「呪盜者。此句所置異本不同。疏主所覽即在因緣法業次下。璿注本云。盜因盜緣盜法盜業呪盜^{巳上}。或本呪盜在方便盜次後。故便與・與咸所釋本云。自盜教人盜。方便盜呪盜^{巳上}。」(『日珠鈔』108下)

(29) 「撲揚疏云。此戒無讚歎隨喜。蓋是存略也。准前戒文。具有讚喜耳。亦可以方便兩字含讚喜二事。一一即應云。方便讚歎盜。方便隨喜盜也。道璿律師注經亦同。」(『日珠鈔』108中)*

◎『智周疏』の「此戒無讚歎隨喜。是存略也。準前戒文。具有讚喜耳。亦可以方便兩字含讚喜二事。二即應云。方便讚歎盜。方便隨喜盜也」(160裏上)に基づく。

(30) 「璿云。物主者。遍通三界六道及三乘聖人^{巳上}。」(『日珠鈔』109上)*

「周云。鬼神者。是隱顯自在名含三寶。三乘聖人並隱顯自在。名為神聖故^{巳上}。璿註亦爾。經乃至言。周・璿二現並利涉師等皆屬上主。即乃至鬼神有主是也。太賢法師居中通上下也。」(『日珠鈔』109中)*

◎『法進疏』は「言鬼神者。人中曰鬼。天中名神。亦云。詔曲不實曰鬼。畫像有不思議隱術方便曰神」(『日珠鈔』109上)。『智周疏』の「物主者。遍通三界六道及三乘聖人。何以菩薩遍一切。凡聖普同受得所對防盜。亦遍一切故。戒本云乃至者。超越之詞也。鬼神者。是隱顯自在名此含三寶。三乘聖人並隱顯自在。名為神聖故。皆是物主。故云有主也」(160裏下-161表上)に基づく。

(31) 「疏主・法銑・智周・道璿・太賢・善珠・利涉・法進。如是諸師並判一錢一針等皆波羅夷罪。」(『日珠鈔』109下)*

◎『智周疏』は「一針一草者。此物體但是有主物。一針一草尚犯夷罪。何況更多。此大乘順理故。制不同小乘隨國土盜至死處滿五名夷也」(161表上)、『義寂疏』は「乃至不施一錢一針一草。有求法者。不爲說一句一偈一微塵計法。而反更罵辱者。是菩薩波羅夷罪」(667中)、『法進疏』は「菩薩取

人財物。無論多少。但作盜心。舉離本處。一針一草。尚自犯夷。何況多取。謂大乘順理故制重也」(『日珠鈔』110上)。道璿は『智周疏』に基づくか。

- (32) 「今疏主及智周等通五趣之意。人言總目一切有主。非局人道。故智周・道璿並云。人之一字。遍通一切言者^{已上}。法進註釋全同周・璿。」(『日珠鈔』110下-111上)^{*}

○『智周疏』の「人之一字。遍通一切主者」(161表下)に基づく。なお、『法進疏』は正確には「言人之一字者。遍通一切物主」(『日珠鈔』111上)。

【第三重戒】

若佛子。自⁽³³⁾姪教人姪。乃至一切女人不得⁽³⁴⁾故姪。姪因姪縁姪法姪業。乃至畜生女諸天鬼神女。及⁽³⁵⁾非道行姪。而菩薩應生孝順心。救度一切衆生。淨法與人。而反更起一切人姪。不擇畜生乃至母女姉妹六親行姪無慈悲心者。是菩薩波羅夷罪。(1004中26-下2)

- (33) 「璿師云。問。准優婆塞五戒經。自妻不犯邪姪。侵他外境。方犯邪姪。今此經不簡邪正。一切總斷。有受菩薩大戒。犯姪者。是犯戒不。答。總斷。有受菩薩大戒。犯姪者。是犯戒不。答。如彼經。自妻不犯邪姪者。此是引攝一類任持有餘人乘教義。今此至教大乘所說。乃至非道行姪。尚制重罪。何有許自妻之義。所以涅槃說。菩薩若聞若見女人。心動念而犯姪欲。汚辱梵行人。又此經云。但解語得戒皆名第一清淨者。又本業經云。有犯名菩薩。無犯名畜生者。遠有出期。故名菩薩。不受者。無有出期。故呵云同於畜生。故一切受欲皆非梵行。所以大乘頓斷。本業經云。若犯十重。墮地獄中。一日一夜。八萬四千迴生死。迷理破戒。深可悲哉。此大乘戒本。依理制故。一切頓斷。不同小乘入如毛頭結重也。若自知全地具足波羅蜜義。住慈愍心。行非梵行者。方始無過。若不爾者。特宜慎之。忽以一例諸以凡類聖。但可守文而以息忘歸眞者乎^{已上}。撲揚亦爾。」(『日珠鈔』113下)^{*}

○『智周疏』に「問。准優婆塞五戒經。自妻不犯邪姪。侵他外境。

方犯邪姪。今時此經不簡邪及正。一切總斷則有不。夫妻月受菩薩大戒。受已則犯姪欲。此是得戒。又是犯戒以不。答。如優婆塞戒經許自妻不犯邪姪者。此是引攝一類任時有餘人乘教義也。今此至極大乘經說。一切諸乘同一大乘。所以乃至非道行姪。尚制重罪。何有許自妻子之義。所以涅槃經說。菩薩若聞若見女人。生心動念。而犯姪欲。污辱梵行。謹按本業經。與此同云。但有心向戒。解法師語者。皆名第一清淨者。則一切總得戒。而有夫妻同受戒已。同犯姪者。准一切大乘經。非道行姪尚犯。何況男女夫妻。根門相觸。種生死業。而得不犯夷罪。故本業經云。有犯名菩薩。無犯名畜生釋曰。有戒可犯。遠有出離之期。故名菩薩。不受戒者。無有出期。故解呵云。無戒犯名畜生是也。故一切愛欲皆非梵行。所以大乘頓斷。……故本業經云。若犯十重。墮大地獄中。一日一夜。八萬四千迴生死。迷染破戒。深可悲哉。深可悲哉。……不同小乘入如毛頭結重。此今大乘戒本。依理制故。一切頓斷故」(161裏下-162裏下)とあるのに基づく。ただし、道璿注末尾の「若自知全地具足波羅蜜義。住慈愍心行非梵行者。方始無過。若不爾者特宜慎之。忽以一例諸以凡類聖。但可守文而以息忘歸真者乎」は『智周疏』には見られない。

(34) 「周璿並云。簡異睡夢。名曰故姪^{已上}。」(『日珠鈔』116中)*

○『智周疏』の「簡異睡夢。名曰故姪^云」(165表上)に基づく。

(35) 「道璿疏云。非道者。除於三處。一切男女身分之上而姪者。云非道行姪^文。撲揚疏亦同之也。」(『述迹鈔』397下)

○『智周疏』は、この第三重戒に對する注釋までを存し、以降を缺く。『智周疏』の「除此三處。於一切男女身分之上而姪者。故云。非道行姪也^云」(165裏上)に基づく。

【第四重戒】

若佛子。自妄語教人妄語⁽³⁶⁾方便妄語。妄語因妄語緣妄語法妄語業。乃至不見言見。見言不見。身心妄語。而菩薩常生正語正見。亦生一切衆生正語正見。而反更起一切衆生邪語邪見邪業者。是菩薩波羅夷罪。(1004下3-7)

- (36) 「周・璿並云。方便妄通自他。各設方便妄^{已上}。又云。方便妄語者。或假託官勢。冥道神鬼。計利求利。惡求多求。矯設多端。指注餘事。違心背想。口是心非。種種異計。言不稱實。皆一一事上心口相違。並名方便妄語。自作既爾。教他亦然^{已上}。」(『日珠鈔』125上)^{*}

◎『法銚疏2』は、この第四重戒に對する注釋までを存し、以降を缺く。『智周疏』の相當部分は散佚。ただし、『日珠鈔』によれば、『智周疏』に基づくものごとくである。

【第五重戒】

若佛子。⁽³⁷⁾ 自酤酒教人酤酒。酤酒因酤酒緣酤酒法酤酒業。一切酒不得酤。是酒起罪因緣。而菩薩應生一切衆生明達之慧。而反更生一切衆生顛倒之心者。是菩薩波羅夷罪。(1004下8-12)

- (37) 「周云。唯舉自酤酒教人兩位。文無讚喜者還存略也^{已上}。道璿亦爾。」(『日珠鈔』130下)^{*}

◎『智周疏』『法銚疏』の相當部分は散佚。ただし、『日珠鈔』によれば、『智周疏』に基づくものごとくである。

【第六重戒】

若佛子。自說^{*} ⁽³⁸⁾ 出家在家菩薩比丘比丘尼罪過。教人說罪過。罪過因罪過緣罪過法罪過業。而菩薩聞⁽³⁹⁾ 外道惡人及二乘惡人說佛法中非法非律。常生悲心教化是惡人輩。令生⁽⁴⁰⁾ 大乘善信。而菩薩反更自說佛法中罪過者。是菩薩波羅夷罪。(1004下13-18)

^{*}「或經本云。口自說。如周・璿・咸等所覺本。奧等所覽無口之字。」(『日珠鈔』134下)^{*}

- (38) 「周・璿並云。出家在家菩薩。是大乘人也。比丘比丘尼是小乘人^{已上}。」(『日珠鈔』135中)^{*}

◎『智周疏』『法銚疏』の相當部分は散佚。ただし、『日珠鈔』によれば、『智周疏』に基づくものごとくである。

「璿云。言罪過者。罪由摧也。人造惡業。能牽引人受。論惡苦。摧伏身心。墮不如意處。故名罪也。過者。患也。惡也。如人身心不安。名爲所患。今違理說他。故名爲過也^{已上}。此釋字義非定罪體。」
 (『日珠鈔』135中)*

○『智周疏』『法銑疏』の相當部分は散佚。依據した注釋未詳。

- (39) 「璿云。言外道惡人者。憎疾故說。二乘惡人。迷正癡狂故說。今此二種人。同說諸佛菩薩心地戒法爲非法非律。故總名惡人也^{已上}。」
 (『日珠鈔』136中)*

○『智周疏』『法銑疏』の相當部分は散佚。依據した注釋未詳。

- (40) 「璿云。大乘善信者。乃是常住佛性之所生善。非二乘人所行之善信也^{已上}。」(『日珠鈔』137上)*

○『智周疏』『法銑疏』の相當部分は散佚。依據した注釋未詳。

【第七重戒】

若佛子。⁽⁴¹⁾ 自讚毀他亦教人自讚毀他。毀他因毀他緣毀他法毀他業。而菩薩應代一切衆生。受加毀辱。惡事自向己好事與他人。若自揚己德隱他人好事。令他人受毀者。是菩薩波羅夷罪。(1004下19-23)

「周・璿・賢等所牒本云。口自讚毀他。奧・咸・珠等所牒經本。無口之字。」(『日珠鈔』148上)

- (41) 「周・璿並云。略無讚喜。」(『日珠鈔』148上)*

○『智周疏』『法銑疏』の相當部分は散佚。ただし、『日珠鈔』によれば、『智周疏』に基づくものごとくである。

【第八重戒】

若佛子。⁽⁴²⁾ 自慳教人慳。慳因慳緣慳法慳業。而菩薩見一切貧窮人來乞者。隨前人所須一切給與。而菩薩以惡心瞋心。乃至不施一錢一針一草。有求法者。不爲說一句一偈一微塵許法。而反更罵辱者。是菩薩波羅夷罪。(1004下2-1005上4)

(22)

(42) 「周・璿並云。還略無讚毀也^{巳上}。」(『日珠鈔』150上)*

○『智周疏』『法銑疏』の相當部分は散佚。ただし、『日珠鈔』によれば、『智周疏』に基づくものごとくである。

【第九重戒】

若佛子。自瞋教人瞋。瞋因瞋縁瞋法瞋業。而菩薩應生一切衆生中⁽⁴³⁾ 善根無諍之事。常生悲心。而反更於一切衆生中。乃至於非衆生中。以惡口罵辱加以手打。及以刀杖意猶不息。前人求悔善言懺謝。猶瞋不解者。是菩薩波羅夷罪。(1005上5-10)

(43) 「加之周・璿並云。言善根者。如本業經說。一切佛及菩薩。以十信心爲善根本。爲菩薩者。應教一切衆生。習學信・進・念・定・惠・六迴向心・七不退心・八護法心・九戒心・十願心。如是十心。爲一切佛及菩薩行之根本。佛及菩薩。由是十心。生成長養具足圓滿。故名善根也。無諍之事者。有二種。一對治無諍。二如理無諍。如上例釋^{巳上}。」(『日珠鈔』155下)*

○『智周疏』『法銑疏』の相當部分は散佚。ただし、『日珠鈔』によれば、『智周疏』に基づくものごとくである。

【第十重戒】

若佛子。⁽⁴⁴⁾ 自謗三寶教人謗三寶。謗因謗縁謗法謗業。而菩薩見外道及以惡人一言謗佛音聲。如三百銖刺心。況口自謗不生信心孝順心。而反更助惡人邪見人謗者。是菩薩波羅夷罪。(1005上11-15)

(44) 「周・璿並云。無讚喜者略也^{巳上}。」(『日珠鈔』159上)*

○『智周疏』『法銑疏』の相當部分は散佚。ただし、『日珠鈔』によれば、『智周疏』に基づくものごとくである。

【結】

善學諸仁*者。是菩薩十波羅提木叉。應當學。於中不應一一犯如微塵許。何況具足犯十戒。若有犯者不得現身發菩提心。

(45) 亦失國王位轉輪王位。亦失比丘比丘尼位。亦失十發趣十長養十金剛十地佛性常住妙果。一切皆失墮三惡道中。二劫三劫不聞父母三寶名字。以是不應一一犯。汝等一切諸菩薩今學當學已學。如是十戒應當學敬心奉持。八萬威儀品當廣明。(1005上16-24)

*「周・璿所牒經云諸仁者。餘師所牒多如今疏。」(『日珠鈔』160下)

(45) 「周・璿並云。亦失國王位者。若持十戒。爲國王因。由破戒時。王因則失故。果位亦失。此是諸小國王并粟散王等。轉輪王位者。即金銀銅鐵四種通名轉輪王。皆亦失也^上。」(『日珠鈔』161中)

◎『元曉疏』は、十重戒までの經文に對する注釋を存し、以降を缺く。『智周疏』『法銑疏』の相當部分は散佚。ただし、『日珠鈔』によれば、『智周疏』に基づくものごとくである。

【四十八輕戒】

【序】

佛告諸菩薩言。已說十波羅提木叉竟。四十八輕今當說。(46)
(1005上25-26)

(46) 「道璿云。簡異十重名輕。污辱淨戒名垢。罪者摧也^文。」(『述迹鈔』443下)

◎『智周疏』は、四十八輕戒以降の經文に對する注釋を存す。『法銑疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。『智周疏』の「言輕垢罪者。簡異十重名輕。污辱戒名垢。罪者摧也」(165裏下)に基づく。

「撲揚疏第四云。若依瑜伽論有四十四輕戒^上。道璿注釋中卷亦爾。此等諸師皆判爲四十四輕戒。」(『日珠鈔』165中)^{*}

「道璿注云。地持・善戒。少有增減。大同瑜伽。以是同本異譯故^上。其意全與周疏同也。」(『日珠鈔』165下)^{*}

「道璿云。通論此篇與諸教開合。瑜伽有四十四輕戒。地持・善戒。小有增減。大同瑜伽。是同本異譯。菩薩內戒經四十三輕戒。善生

有二十八輕垢戒。方等經除二十四重外。別有二十五輕戒。此經大數四十八^文。】(『述述鈔』448下)

○『法銚疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。『智周疏』の「開合略出十例。一若依瑜伽論。有四十四種輕戒。二若依地持・善戒。少有増減。大同瑜伽」(166表上)に基づく。ただし、道璿注の「是同本異譯」以下は『智周疏』になし。なお、『法藏疏』に「此篇類有十。一若依瑜伽。有四十四種輕戒。二若依地持・善戒經。雖有少増減。大同瑜伽。已上多分是出家戒相」(634中)とある。

「道璿云。先就律儀中。開合不定。總之。唯謂三聚中一律儀戒分爲二。如地持說。一在家。二出家。或分爲三。別解脫戒・禪戒・無漏戒。或分爲七。謂七衆戒。次就攝善開合辨相。總唯一善戒。分二。福與智。或分三。聞・思・修。或四。聞・思・修・證。或五。如地經說。凡夫二乘菩薩及佛五品善法。即爲五。或分六。謂六波羅蜜。或分十。謂十善道。次就攝衆生開合辨相。總之唯一。謂作立攝心。或分二。一離惡攝。二修善攝。或分三。謂身・口・意攝取衆生。或分四。謂四攝法。或分五。五品善法^文。】(『述述鈔』448下-449上)

○『法銚疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。依據した注釋未詳。

【第一輕戒】

佛言。若佛子。欲受國王位時。受轉輪王位時。百官受位時。應先受菩薩戒。一切鬼神救護王身百官之身。諸佛歡喜。既得戒已。生孝順心恭敬心。見上座和上阿闍梨大同學同見同行者。應起承迎禮拜問訊。而菩薩反生憍心慢心癡心。不起承迎禮拜。一一不如法供養。以自賣身國城男女⁽⁴⁷⁾七寶百物而供給之。若不爾者。犯輕垢罪。(1005上27-中5)

(47)「周云。經七寶者。有二種。一金輪藏臣等寶^{乃至}以上七寶。十迴向菩薩作世間金輪王。王四天下。先感得。後皆能捨。成無著戒也。又七寶者。一金。二銀^{乃至}此七寶。十住十行已前粟散王等。爲成菩薩行願。捨而不著。成無著戒也^{已上}。道璿亦爾。」(『日珠鈔』

171下-172上)*

○『法銚疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。『智周疏』の「七寶者。有二種。一金輪藏臣等寶。七寶者。一金輪寶・玉女・馬象・珠玉・兵臣・主藏・臣寶等^{以〔巳〕七寶。十回向善。先咸得。後皆能。又}七寶者。一金・二銀・三瑠璃・四頗梨・五赤珠・六車渠・七瑪瑙^{此七寶十信十住十行已示粟散王等。爲成菩薩行願。捨而不著。成無著戒也。}。」(168表下)に基づく。

【第二輕戒】

若佛子。故飲酒而生酒過失無量*。若自身手過酒器與人飲酒者。五百世無手。何況自飲。不得教一切人飲。及一切衆生飲酒。況自飲酒。若故自飲**教人飲者。犯輕垢罪。(48) (1005中6-9)

*「經本不同。或本云。而生酒過失無量功德。瑠師所註本是。或本云。而生酒過失無善。智周所牒經也。故彼疏云。而此經本傳來既久。有本云。故飲酒而生酒過失無量。又有本云。加一善字。學者應知。今依失無量善本釋之^{已上}。」(『日珠鈔』174中)

**「或本云。亦不得教一切人飲。若故自飲等 云云。此是道瑠・傳奧所牒經也。然瑠本唯云不得教。無亦之字。處行・善珠所牒經本。初無亦言。況自飲酒句下無一切酒不得飲六字。餘同與咸所牒本也。今疏所牒言不得教人。亦有一切衆生句也。」(『日珠鈔』176上)*

(48) 「道瑠注引末利夫人開緣釋云。有心佛子。一一隱心。能於病行。無染無着。住無着戒。方可行之^矣。故知。有利益時。雖在家局地上可許之^見。」(『補忘抄』670上-下)

○『法銚疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。『智周疏』の「又如末利夫人。經爲救彼無間業人故。與同飲歡。致息重業。此皆開通理。亦無犯。亦是菩薩。以衆生病。是故我病。衆生病愈。我病即愈。有心佛子。一一隱心。能於病行。無染無著。或可行之矣」(168裏下)に基づく。

【第三輕戒】

若佛子。故食肉一切*肉不得食。斷大慈悲*性種子。一切衆

(26)

生見而捨去。是故一切菩薩不得食一切衆生肉。食肉得無量罪。若故食者。犯輕垢罪。(49) (1005中10-13)

「咸云。有本云。一切衆生肉不得食。又有本云。斷大慈悲佛性種種。即多衆生二字并一佛字。經本互有脫剩。亦不失義理^{已上}。周・咸二師所牒本有衆生二字。今疏・奧・璿等所牒即無此二字。周・璿釋本有佛一字。餘諸師所牒多無此字。」(『日珠鈔』177下)

(49) 「撲揚疏四云。七通塞者。約別教三賢位人。以不見機。一向皆塞。初地已上。見機而作。或以食肉因緣。令諸衆生發菩提心。成菩提心。斷惡生善。破惑見理。故應爲之^{文璿注}。」(『補忘抄』670下-671上)

○『法銚疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。『智周疏』の「七通塞者。約別教三賢位人。以不見機。一向皆塞。初地以上。見機而作。或以食肉因緣。令諸衆生發菩薩意。成菩薩心。斷惡生善。破惑見理。故應爲之」(169裏上)に基づく。

【第四輕戒】

若佛子。不得食⁽⁵⁰⁾五辛。大蒜・草葱・慈葱・蘭葱・興藁。是五種一切食中不得食。若故食者。犯輕垢罪。(1005中14-16)

(50) 「故今疏釋。韭雖不入五。道璿注入五辛。楞伽經亦制之。仍不可食。」(『補忘抄』671下)

「集注菩薩戒云。草葱者。山葱也。又云韭^文。」(『述迹鈔』464下)

○『法銚疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。『智周疏』の「今經革蔥者。相承是山蔥也」(170表下)に基づく。道璿注末尾の「又云韭」は『智周疏』にはない。

【第五輕戒】

若佛子。見一切衆生犯八戒五戒十戒。毀禁七逆⁽⁵¹⁾八難一切犯戒罪。應教懺悔。而菩薩不教懺悔共住同僧利養。而共布薩同一衆住說戒。而不舉其罪教悔過者。犯輕垢罪。(1005中17-21)

- (51) 「周云。今准地持論中說。菩薩戒有八重法。與今經十重大同。而而菩薩犯八重者。生八難處。即以八重八難之因。令菩薩舉處懺悔。因中說果。故名八難^{已上}。彼師舉古三塗八難之義破之。而立此正義。全同莊師。彼道璿註不舉古義。直出自義。全同周疏。」(『日珠鈔』185上)^{*}

◎『法銚疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。『智周疏』の「今准地持論中說。菩薩戒有八重法。與今經十重大同。而菩薩犯八重者。生八難處。即以八重八難之因。令菩薩舉處懺悔。因中說果。故名八難也^云」(170裏下)に基づく。

【第六輕戒】

若佛子。見大乘法師大乘同學同見同行。來入僧坊舍宅城邑。若⁽⁵²⁾百里千里來者。即起迎來送去禮拜供養。日日三時供養。日食三兩金百味飲食床座醫藥供事法師。一切所須盡給與之。常請法師三時說法。日日三時禮拜。不生瞋心患惱之心。爲法滅身請法不懈。若不爾者。犯輕垢罪。(1005中22-28)

- (52) 「璿云。明爲弘宣大乘法故。遠來傳授^{已上}。」(『日珠鈔』186上)^{*}

◎『法銚疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。『智周疏』の「明爲弘宣大法故。遠來傳授也」(171裏上)に基づく。

【第七輕戒・第八輕戒は省略】

【第九輕戒】

若佛子。⁽⁵³⁾見一切疾病人。常應供養如佛無異。八福田中看病福田第一福田。若⁽⁵⁴⁾父母師僧弟子疾病。諸根不具百種病苦惱。皆養令差。而菩薩以惡心瞋恨。不至僧房中城邑曠野山林道路中。見病不救者犯輕垢罪。(1005下4-12)

- (53) 「璿云。不受長者請經云。佛自看病。比丘洗浣。說法告諸比丘。汝等捨父母兄弟。唯有師僧同學。何不相看。種種呵已。現金色身。皆從看病因緣故^{已上}。」(『日珠鈔』189上)^{*}

○『法銚疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。『智周疏』の「又不受長者請經云。佛自看病。比丘洗滌。說法告諸比丘。汝等捨父母兄弟。唯有師僧同學。何不相看。種種呵已。現金色身。皆從看病因緣故來。何況凡下」(173表下)に基づく。

(54)「道璿注云。失父母故。無恃無怙。毛詩云。失父爲恃。失母爲怙故^文。」(『述迹鈔』476下)

○『法銚疏』の相當部分は散佚。依據した注釋未詳。

【第十輕戒・第十一輕戒は省略】

【第十二輕戒】

若佛子。故販賣良人奴婢六畜。市易棺材板木⁽⁵⁵⁾ 盛死之具。尚不自作況教人作。若故作者。犯輕垢罪。(1005下24-1006上1)

(55)「璿云。盛死之具者。諸佛教中。唯有水火林三葬。終無許用盛死人具。何況販賣^{已上}。」(『日珠鈔』192上)*

○『法銚疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。『智周疏』の「盛死具者。諸佛教中。唯有水火林三葬。終無許用盛死人具。何況賣販行非法耶」(174裏下)に基づく。

【第十三輕戒】

若佛子。以惡心故無事謗他⁽⁵⁶⁾ 良人善人法師師僧國王貴人。言犯七逆十重。於父母兄弟六親中。應生孝順心慈悲心。而反更加於逆害⁽⁵⁷⁾ 墮不如意處者。犯輕垢罪。(1006上2-5)

(56)「道璿注云。無過近事。無過白衣云良人。無過五衆云善人^文。」(『補忘抄』679下)

○『法銚疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。依據した注釋未詳。

(57)「道璿云。令無過人處襄惡事。名墮不如意處^文。」(『述迹鈔』484上)

○『法銚疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。依據した注釋未詳。

【第十四輕戒・第十五輕戒は省略】

【第十六輕戒】

若佛子。應好心先學大乘威儀經律。廣開解⁽⁵⁸⁾義味。見後新學菩薩有從百里千里來求大乘經律。應如法爲說一切苦行。若燒身燒臂燒指。若不燒身臂指供養諸佛非出家菩薩。乃至餓虎狼獅子一切餓鬼。悉應捨身肉手足而供養之。後一一次第爲說正法。使心開意解。而菩薩爲利養故應答不答。倒說經律文字無前無後謗三寶說者。犯輕垢罪。(1006上16-24)

(58)「義味者。曠疏云。所詮之旨爲義。義理適神名味^{文 稽注之。}」(『補忘抄』681下)

◎『法銑疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。『明曠疏』の「所詮之旨爲義。義理適神名味」(592中)に基づく。『日珠鈔』所引の『法進疏』は「進云。廣開解義味者。所詮之旨名爲義。能通神曰。不必文多而取義多。如涅槃經云。寧以少聞而多解義味。不貴多文而於義不了。不了者謂心未開悟故^{已上。}」(196中)。

【第十七輕戒～第十九輕戒は省略】

【第二十輕戒】

若佛子。以慈心故行放生業。一切男子是我父。一切女人是我母。我生生無不從之受生。故六道衆生皆是我父母。而殺而食者。即殺我父母亦殺我故身。⁽⁵⁹⁾一切地水是我先身。一切火風是我本體。故常行放生。⁽⁶⁰⁾生生受生。常住之法。教人放生*。若見世人殺畜生時。應方便救護解其苦難。常教化講說菩薩戒救度衆生。若父母兄弟死亡之日。應請法師講菩薩戒經福資亡者。得見諸佛生人天上。若不爾者犯輕垢罪。

如是十戒應當學敬心奉持。如滅罪品中廣明一一戒相。(1006中9-20)

*「經。生生受生者。咸師所牒經云。生生受生常住之法教人放生。銑師所釋亦爾。塔師註經無常住已下二句文。今疏釋意亦爾。」(『日珠鈔』200上)

(30)

(59) 「璿下云。一切衆生同以四大五蘊而成其身。殺彼即殺我身^文。」(『補忘抄』684上)

○『智周疏』は、この第二十輕戒までの經文に對する注釋を存し、以降を缺く。『法銚疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。依據した注釋未詳。

(60) 「生生者。能殺所殺衆生。依行放生。所殺生免死。今世受生。能殺生。離殺生業。故後生受長命無病生。是故能所合云受生。道璿注意如是^見。」(『補忘抄』685下)

「一義云。訓生生受生。此點道璿意也。生生者。能殺所殺二衆生也。依行放生。所殺生免死。今世受生。能殺之生。離殺生之業。故後世受長壽無病生。是故合云受生。」(『述迹鈔』498上)

○『法銚疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。依據した注釋未詳。

【第二十一輕戒は省略】

【第二十二輕戒】

若佛子。初始出家未有所解。而自恃聰明有智。或恃高貴年宿。或恃大姓高門大解大福*饒財七寶。以此僞慢而不諮受先學法師經律。其法師者。或小姓年少卑門貧窮諸根不具。而實有德一切經律盡解。而新學菩薩不得觀法師種姓。而不來諮受法師第一義諦者。犯輕垢罪。(1006中27-下4)

*「與咸所牒經云。大解大福大富饒財七寶^{已上}。今疏所釋亦爾。與・璿所牒無大富句。然與師亦爲十事。以饒財七寶分爲二事故。」(『日珠鈔』207上)

【第二十三輕戒は省略】

【第二十四輕戒】

若佛子。有佛經律大乘正法正見正性正法身而不能勤學修習而捨七寶。反學邪見二乘外道俗典。阿毘曇雜論書記。是斷佛性障道因緣。非行菩薩道。若故作者。犯輕垢罪。⁽⁶¹⁾(1006下19-23)

- (61) 「璿注云。問。此與前背正向邪戒有何差別。答。前文不信大乘。言非佛說。而向邪小。此不能勤學。名之爲捨。非謂不信。有此不同^{文 銑下未同之}。」(『補忘抄』688下)

○『智周疏』『法銑疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。『補忘抄』の「銑下未同之」は、恐らく、「銑下未同之」の誤りであろうから、これによれば、『法銑疏』に基づくものであろう。

【第二十五輕戒】

若佛子。佛滅後。爲說法主爲僧房主教化主坐禪主行來主*。應生慈心善和鬪訟。善守三寶物莫無度用如自己有。而反亂衆鬪諍恣心用三寶物者。犯輕垢罪。(1006下24-1007上2)

*「今疏既云。略舉五種。即無行法主。是故與咸如此引也。此乃疏主所覽本爾。加之傳與・道璿所釋亦爾。自餘諸師所釋之本。多有行法主。故成六種。」(『日珠鈔』209下)

【第二十六輕戒は省略】

【第二十七輕戒】

若佛子。一切不得受別請利養入己。而此利養屬十方僧。而別受請即取十方僧物入己。(62) 八福田諸佛聖人一一師僧父母病人物自己用故。犯輕垢罪。(1007上13-16)

- (62) 「道璿注云。八福田物。此等同別請利養。若輒爲己取用分毫。皆結輕垢^文。」(『補忘抄』692上)

○『智周疏』『法銑疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。依據した注釋未詳。

「道璿云。八福田物。此等物同別請利益。若輒爲己取分毫。皆結輕垢^文。」(『述述鈔』519上)

○『智周疏』『法銑疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。依據した注釋未詳。

【第二十八輕戒・第二十九輕戒は省略】

【第三十輕戒】

若佛子。以惡心故自身謗三寶。詐現親附。口便說空行在有中。爲白衣通致男女交會姪色縛著。於六齋日年⁽⁶³⁾ 三長齋月。作殺生劫盜破齋犯戒者。犯輕垢罪。

如是十戒。應當學敬心奉持。制戒品中廣解。(1007上28-中3)

(63) 「道璿注云。正月帝釋與諸天鑑臨南閻浮提。二西三北四東。如是一年三周。所以正五九之月。佛哀愍故。遣專修善破惡^文。」(『述迹鈔』526上)

○『智周疏』『法銑疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。依據した注釋未詳。

【第三十一輕戒】

佛言。佛子。佛滅度後於惡世中。若見外道一切惡人劫賊賣佛菩薩⁽⁶⁴⁾ 父母形像販賣經律。販賣比丘比丘尼亦賣發心菩薩道人。或爲官使。與一切人作奴婢者。而菩薩見是事已。應生慈心方便救護處處教化。取物贖佛菩薩形像。及比丘比丘尼發心菩薩一切經律。若不贖者。犯輕垢罪。(1007中4-10)

(64) 「璿云。呼佛菩薩爲父母。以能生我法慧命故。名爲父母。若是生身之父母。何人買之^{已上}。」(『日珠鈔』215下)*

○『智周疏』『法銑疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。依據した注釋未詳。

【第三十二輕戒～第三十四輕戒は省略】

【第三十五輕戒】

若佛子。常應發⁽⁶⁵⁾ 一切願。孝順父母師僧三寶。願得好師同學善友知識。常教我大乘經律。十發趣十長養十金剛十地。使我開解。如法修行堅持佛戒。寧捨身命念念不去心。若一切苦

薩不發是願者。犯輕垢罪。(1007中27-下2)

- (65) 「智周道璿科爲十願。明曠亦爾。但數十中。一孝順父母。二孝順師僧。三願得好師友。餘同諸師。然周亦出一義。璿師意同。案與戒註。有本師僧字下有三寶字。法銑・傳興科爲五願。利涉解釋即異兩師。義寂・太賢義意是同。十願是別。非指今戒。周云。一切願云如華嚴經淨行品。發一百四十願。隨作一一行時。與行俱發。又十地品十無盡願一一結云。虛空法界盡我願亦如是。故名無盡願。又本業經名門品。令十信菩薩常發無量有行無行大願。入習種中。廣行一切願云。發住賢人。發廣大願。今願今生至佛。一切願入在我願中。無不成就。自致得佛。以願爲本。一切菩薩。若入是願。無不得入薩婆若海。佛子住是住中。發大願已。過外一切凡夫行十信者。十信菩薩發二十六願。乘因向果。破邊邪無明攝一願。有心行者。看經行之。可知自身行願也^{巳上}。又云。此中以次下戒初云十大願。即於今文列爲十數。一父母師僧三寶。二願得好師等^{云云}。次解云。亦可以華嚴十無盡藏願。與此中願橫豎望說之。一一願海同虛空滿法界者。此爲十大願也^{巳上}。」(『日珠鈔』223中-下)
- 「曠疏云。不發十願戒。曠疏所制十願者。於今經文分之。大途同道璿注。璿文文集引之。」(『補忘抄』700下)
- 「道璿・與咸・撲揚等皆如今於此經文釋十願也。」(『述迹鈔』537上)
- 「然明曠・勝莊・與咸・道璿・天台・撲揚等。於前戒經文得意十願。是以此戒云發十大願已。指前戒^{云云}。」(『述迹鈔』538下)

○『智周疏』『法銑疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。ただし、『日珠鈔』によれば、『智周疏』に基づくものごとくである。なお、『明曠疏』には、「三十五不發十願戒。菩薩發願使心不退行有旨歸。故不發願而制犯也。別具二緣。一不發願。二發而廢止便犯。就文爲三。初標名總舉大數。故云一切。次孝順下別列十願。三若一切下違制結犯如文。次別列中孝順父母師僧爲二。三願得好師友。四願常教我大乘。五願常教我十住。六願常教我十迴向。八願常教我十地。九願使我開解如法修行。十願堅持佛戒。堅持佛戒通於初後。故知十願因果具足」(596上)とある。

【第三十六輕戒】

若佛子。發十大願已。持佛禁戒。⁽⁶⁶⁾作是願言。寧以此身投熾然猛火大坑刀山。終不毀犯三世諸佛經律與一切女人作不淨行。

復作是願。寧以熱鐵羅網千重周匝纏身。終不以破戒之身受於信心檀越一切衣服。

復作是願。寧以此口吞熱鐵丸及大流猛火經百千劫。終不以破戒之口食信心檀越百味飲食。

復作是願。寧以此身臥大猛火羅網熱鐵地上。終不以破戒之身受信心檀越百種床座。

復作是願。寧以此身受三百鉞刺經一劫二劫。終不以破戒之身受信心檀越百味醫藥。

復作是願。寧以此身投熱鐵鑊經百千劫。終不以破戒之身受信心檀越千種房舍屋宅園林田地。

復作是願。寧以鐵鎚打碎此身從頭至足令如微塵。終不以破戒之身受信心檀越恭敬禮拜。

復作是願。寧以百千熱鐵刀鉞挑其兩目。終不以破戒之心視他好色。

復作是願。寧以百千鐵錐遍劓刺耳根經一劫二劫。終不以破戒之心聽好音聲。

復作是願。寧以百千刃刀割去其鼻。終不以破戒之心貪嗅諸香。

復作是願。寧以百千刃刀割斷其舌。終不以破戒之心食人百味淨食。

復作是願。寧以利斧斬斫其身。終不以破戒之心貪著好觸。

復作是願。願一切衆生悉得成佛。而菩薩若不發是願者。犯輕垢罪。(1007下3-1008上12)

(66)「璿注云。問。誓與願何別。答。在心爲願。發口爲誓。故云。作是願言。又樂善爲願。防惡爲誓。故云。寧以此身等。如世呪誓不名願。又要所未得曰願。必固勇烈之心曰誓^文。」(『補忘抄』701上)「道璿云。問。誓與願何別。答。在心爲願。發口爲誓。故云。作是願言。又樂善爲願。防惡爲誓。故云。寧以此身等。如世呪誓不

名願。又要所未得曰願。必因勇烈之心曰誓^文。」(『述述鈔』537上)

○『智周疏』『法銑疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。『義寂疏』に「在心爲願。形口爲誓」(682上)とあり、これに基づいたごとくであるが、これ以外の部分については、依據した注釋未詳。

【第三十七輕戒】

若佛子常應二時頭陀冬夏坐禪結夏安居。常用楊枝澡豆三衣瓶鉢坐具錫杖香爐漉水囊手巾刀子火燧鑷子繩床經律佛像菩薩形像。而菩薩行頭陀時及遊方時。行來百里千里。此十八種物常隨其身。頭陀者從正月十五日至三月十五日。八月十五日至十月十五日。是二時中此⁽⁶⁷⁾十八種物。常隨其身如鳥二翼。若布薩日新學菩薩。半月半月布薩誦十重四十八輕戒。時於諸佛菩薩形像前。一人布薩即一人誦。若二人三人乃至百千人亦一人誦。誦者高座。聽者下坐。各各披九條七條五條袈裟。結夏安居一一如法。若頭陀時莫入難處。若國難惡王。土地高下草木深邃。師子虎狼水火風難。及以劫賊道路毒蛇。一切難處悉不得入。若頭陀行道乃至夏坐安居。是諸難處悉不得入。若故入者。犯輕垢罪。(1008上13-29)

(67)「璿注云。初列十八物者如文。一云。闕針筒剃刀。經律像等不入十八數也^文。」(『補忘抄』707上)

○『智周疏』『法銑疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。なお、凝然は『法進疏』について「法銑法師及法進大僧都三衣總合爲一。經律佛像菩薩形像開爲四物。計十八種」(『日珠鈔』226上)と述べる。依據した注釋未詳。

【第三十八輕戒は省略】

【第三十九輕戒】

若佛子。常應教化一切衆生。建立僧房山林園田立作佛塔。冬夏安居坐禪處所。一切行道處。皆應立之。而菩薩應爲一切

衆生講說大乘經律。若疾病國難賊難。父母兄弟和上阿闍梨亡滅之日。及三七日乃至七七日。亦應讀誦講說大乘經律。齋會求福行來治生。大火所燒大水所灑。黑風所吹船舫。江河大海羅刹之難。亦應讀誦講說此經律。乃至一切罪報⁽⁶⁸⁾ 三報七逆八難。杻械枷鎖繫縛其身。多姪多瞋多愚癡多疾病。皆應讀誦講說此經律。而新學菩薩若不爾者。犯輕垢罪。

如是九戒。應當學敬心奉持。梵壇品當說。⁽⁶⁹⁾ (1008中8-20)

(68) 「璿注云。三惡者。有本云三報^文。」(『補忘抄』711下)

○『智周疏』『法銑疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。依據した注釋未詳。

(69) 「道瑤註云。此中舉要而言。則一切障難皆制令讀誦講說大乘經律。若別別而言。若三障諸難則有二十餘種。一一如文可解^上。」(『日珠鈔』235上-中)*

○『智周疏』『法銑疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。依據した注釋未詳。

【第四十輕戒】

佛言。佛子。與人受戒時。不得簡擇一切國王王子大臣百官。比丘比丘尼信男信女姪男姪女。十八梵天六欲天子無根二根黃門奴婢。⁽⁷⁰⁾ 一切鬼神盡得受戒。應教身所著袈裟。皆使壞色與道相應。皆染使青黃赤黑紫色一切染衣。乃至臥具盡以壞色。身所著衣一切染色。若一切國土中國人所著衣服。比丘皆應與其俗服有異。若欲受戒時師應問言。汝⁽⁷¹⁾ 現身不作⁽⁷²⁾ 七逆罪耶。菩薩法師不得與七逆人現身受戒。七逆者。出佛身血。殺父。殺母。殺和上。殺阿闍梨。破羯磨轉法輪僧。殺聖人。若具七遮即現身不得戒。餘一切人盡得受戒。出家人法不向國王禮拜。不向父母禮拜。六親不敬。鬼神不禮。但解師語。有百里千里來求法者。而菩薩法師。以惡心而不即與授一切衆生戒者。犯輕垢罪。(1008中21-下8)

(70) 「撲揚疏云。今初鬼神受得戒者。今此經略。本業經云。六道衆生

盡受持故。此經文不得簡釋。一切者即六道也^文 道璿注同之。攝
化漏失戒下釋。。』(『補
忘抄』546上-下)

○『智周疏』『法銚疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。ただし、『補
忘抄』によれば、『智周疏』に基づくものごとくである。

- (71) 「法藏・與咸・道璿等諸師疏中。俱此二説見。法藏疏云。現身者。
有二義。一簡於過未。故云現也。二此七逆罪未經懺悔。罪猶現在。
故云不得與七逆人現身受戒。若依教相應懺悔應得^文。此疏意存後
義。與咸・道璿等釋同此也。」(『述迹鈔』559上)

○『智周疏』『法銚疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。『法藏疏』
に「言現身者有二義。一簡於過未。故云現也。二此七逆罪
未輕懺悔。罪猶現在。故云不得與七逆人現身受戒。若依教
相應懺悔應得」(652中)とある。『法藏疏』に基づくか。

- (72) 「問。此七逆者。已受戒人所犯爲障歟。又未受戒所犯爲障耶。答。
解釋雖不分明。准經文。又例比丘戒十三難中五逆等之難。未曾都
受戒人。有殺父母等者。可成戒障也。但可除破僧殺和上闍梨三遮。
於未受戒人無和上闍梨故。又俗人不可破僧故也^云。然道璿意不
同此歟。彼道璿疏云。問。爲未受戒人作爲障。爲已受戒人所作爲
障。答。雖未受菩薩戒。若有七戒等。私云。七衆律儀戒。此人所
作爲障。不論未受人^文。」(『述迹鈔』560上)

○『智周疏』『法銚疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。依據した
注釋未詳。

【第四十一輕戒】

若佛子。教化人起信心時。菩薩與他人作教誡法師者。見欲
受戒人。應教請二師和上阿闍梨。二師應問言。汝有七遮罪不。
若現身有七遮。師不應與受戒。無七遮者得受。若有犯十戒者
應教懺悔。在佛菩薩形像前。日夜六時誦十重四十八⁽⁷³⁾輕戒。
若到禮三世千佛得見好相。若一七日二三日乃至一年要見好
相。好相者。佛來摩頂見光見華種種異相。便得滅罪。若無好
相雖懺無益。是人現身亦不得戒。而得增受戒。若犯四十八輕
戒者。對首懺罪滅。不同七遮。而教誡師於是法中一一好解。
若不解大乘經律若輕若重是非之相。不解第一義諦。習種性長

(38)

養性不可壞性道種性正性。其中多少觀行⁽⁷⁴⁾ 出入十禪支一切行法。一一不得此法中意。而菩薩爲利養故爲名聞故。惡求多求貪利弟子。而詐現解一切經律。爲供養故。是自欺詐亦欺詐他人。故與人受戒者。犯輕垢罪。(1008下9-1009上5)

(73) 「道璿注中云。善戒・地持。輕戒名突吉羅。翻惡作惡說。善生名失意罪。忘念所作。乖於本志。於名失意^文。」(『述迹鈔』566下)

○『智周疏』『法銑疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。依據した注釋未詳。

(74) 「道璿注云。出入十禪支者。華嚴十定品亦說十種大三昧。名諸佛菩薩禪定^文。」(『補志抄』723上-下)

○『智周疏』『法銑疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。ただし、『法銑疏1』には、「十禪定」(1003下)に對する「次說十定。禪是梵音。此云思惟修。亦云功德聚林。定即唐語。守境不移。名之爲定。所言十者。花嚴云。一者普光三昧。二者妙光三昧。三者次第遍計諸佛國土大三昧。四者清淨心以大三昧。五者如過去莊嚴藏大三昧。六者智光明藏。七者了知一切世界佛莊嚴。八者衆生差別。九者法界自性。十者無得法輪大三昧」(214-215) という注釋があり、これが『華嚴經』「十定品」の「爾時如來。告普賢菩薩言。普賢。汝應爲普眼及此會中諸菩薩衆。說十三昧。令得善入。成滿普賢所有行願。諸菩薩摩訶薩。說此十大三昧故。令過去菩薩。已得出離。現在菩薩。今得出離。未來菩薩。當得出離。何者爲十。一者普光大三昧。二者妙光大三昧。三者次第遍往諸佛國土大三昧。四者清淨深心行大三昧。五者知過去莊嚴藏大三昧。六者智光明藏大三昧。七者了知一切世界佛莊嚴大三昧。八者衆生差別身大三昧。九者法界自在大三昧。十者無礙輪大三昧」(大正藏10、212下) に基づくものであるから、道璿のこの注釋は『法銑疏』に基づくものごとくである。

【第四十二輕戒～第四十八輕戒は省略】

【結】

諸佛子。是四十八輕戒。汝等受持。過去諸菩薩已誦。未來諸菩薩當誦。現在諸菩薩今誦。諸佛子諦聽。此十重四十八輕戒。三世諸佛已誦當誦今誦。我今亦如是誦。汝等一切大衆。若國王王子百官。比丘比丘尼信男信女。受持菩薩戒者。應受持讀誦解說書寫佛性常住戒卷。流通三世一切衆生化化不絕。得見千佛佛佛授手。世世不墮惡道八難。常生人道天中。我今在此樹下。略開七佛法戒。汝等當一心學波羅提木叉歡喜奉行。如無相天王品勸學中一一廣明。⁽⁷⁵⁾ 三千學士時坐聽者。聞佛自誦。心心頂戴喜躍受持。 (1009中25-下8)

(75) 「撲揚疏云。言三千者。應是釋迦說略戒時。有三千學士也^文。璿釋同之。」(『補忘抄』730上)

◎『智周疏』『法銑疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。『法進疏』は「三千學士者。自下第五大衆奉持分。此明一華百億國一國一釋迦。此是釋迦化。佛略說戒法如此。上文初首聽衆有其百萬億。今者大衆法塵欲末唯有三千。故言三千學士也」(『日珠鈔』262上)。ただし、『補忘抄』によれば、『智周疏』に基づくものごとくである。

【結語】

爾時釋迦牟尼佛。說上蓮花臺藏世界盧舍那佛心地法門品中十無盡戒法品竟。千百億釋迦亦如是說。從摩醯首羅天王宮至此道樹十住處說法品。爲一切菩薩不可說大衆受持讀誦解說其義亦如是。千百億世界蓮花藏世界。微塵世界。一切佛心藏地藏戒藏無量行願藏。因果佛性常住藏。⁽⁷⁶⁾ 如如一切佛說無量一切法藏竟。千百億世界中。一切衆生受持歡喜奉行。

若廣開心地相相。如佛花光王品中說。(1009下9-18)

(76) 「璿注云。前明一切衆生皆有佛性。爲戒本源。其體不易。名爲常住。其理無差。故曰如如。謂。一切色心。皆入佛性戒中。無不如故^文。若依此等義。如如屬下。」(『補忘抄』731上)

「道璿注云。前明一切衆生皆有佛性。爲戒本源。其體不易。名爲常住。其理無差。故曰如如。謂。一切色心。皆入佛性戒中。無不如也^文。法銑云。如如者。前明一切衆生皆有佛性戒本源。其體不易。名爲常住。其理無差。故曰如如。謂。一切色心。皆入佛性戒中。無不如也^文。」(『述迹鈔』582下)

◎『智周疏』『法銑疏』『元曉疏』の相當部分は散佚。ただし、『述迹鈔』によると、『法銑疏』に基づくものごとくである。

明人忍慧強	能持如是法	未成佛道間	安獲五種利
一者十方佛	愍念常守護	二者命終時	正見心歡喜
三者生生處	爲諸菩薩友	四者功德聚	戒度悉成就
五者今後世	性戒福慧滿	此是佛行處	智者善思量
計我著相者	不能信是法	滅盡取證者	亦非下種處
欲長菩提苗	光明照世間	應當靜觀察	諸法眞實相
不生亦不滅	不常復不斷	不一亦不異	不來亦不去
如是一心中	方便勤莊嚴	菩薩所應作	應當次第學
於學於無學	勿生分別想	是名第一道	亦名摩訶衍
一切戲論處	悉由是處滅	諸佛薩婆若	悉由是處出
是故諸佛子	宜發大勇猛	於諸佛淨戒	護持如明珠
過去諸菩薩	已於是中學	未來者當學	現在者今學
此是佛行處	聖主所稱歎	我已隨順說	福德無量聚
迴以施衆生	共向一切智	願聞是法者	疾得成佛道

(1009下19-1010上21)

【尾題】

梵網經盧舍那佛說菩薩心地戒品第十之下 (1010上22)

【奥書】

〔於現光寺撰之。〕⁽⁷⁷⁾

(77) 「道璿注梵網唐僧。來住大安寺。彼疏與書云。於現光寺撰之云云。」(『述迹鈔』245上)

附録 道璿撰『授菩薩戒文』佚文

(78) 「大唐和上觀受菩薩戒文云。戒師即香爐跏趺云。我某甲仰啓十方三。受菩薩戒文中卷三。先請菩薩。後請於佛。受人踞跪。戒師起立。若高座。不須起立。令同音三回三。敬禮十方三。下卷文同中卷。」(『裏書』307)

「大唐和上觀受菩薩戒文云。戒師即執香爐跏趺云。我某甲仰啓十方三。受菩薩戒文中卷三。先請菩薩。後請於佛。受人跏趺。戒師起立。若高座。不須起立。令同音三廻三。敬禮十方三。下卷文同中卷。」(『裏書』322-323)

<キーワード> 道璿 註菩薩戒經 集註梵網經 授菩薩戒文 梵網經